

特定非営利活動法人連塾 会報誌

# 連 塾

第1号



平成20年3月

## 特定非営利活動法人連塾会報誌「連塾」第1号

### 目 次

- 一年を振り返って (松畑熙一) ..... 3

### 活動レポート集

---

- 「地域創生学方法論」確立への一試論 (近藤治) ..... 5
- “わがまちねっと”を背景に“健康づくり会”での活動と“百楽塾OB会”を舞台に地域創生学を実地検証(田中治美) ..... 6
- 地域づくりは、体感治安の向上から (太田正孝) ..... 7
- 英語という言語を指導する際の留意点 (大橋典晶) ..... 8
- 駅西地域振興計画～平成20年駅西地域の現状と今後の予想～ (小野員之) ..... 9
- 暮らしと地域の融合 (千房新太郎) ..... 10
- 自創自給を考える (難波好江) ..... 11
- 「子育て親育ち ～あなたは子どもの心が見えてますか～」の取り組みから (野島淑子) ..... 12
- 地域のスポーツ育成プロジェクト (福高正吾) ..... 13
- 出来そうなこと見つけた (藤原忍) ..... 14
- 児島湖周辺干拓について (三澤初子) ..... 15
- 坪田譲治文学に関する私の仕事 (劉迎) ..... 16
- ある不良塾生の手記 (安藤肇) ..... 17
- 小学校英語教育を通じた地域創生 (岡本育子、藤井佐代子、安武将広) ..... 18
- 地域づくりと「なつかしさ・気づき・文化力・得意分野・持続力・引きつける力」(加戸克平) ..... 20
- 山田方谷に関するレポート (川上道子) ..... 21
- 或る高齢化団地のこれから—健康で明るい生き方を求めて (福田明正) ..... 22
- 地域づくりの心の片隅には常に防災意識を (その1) (舟木信行) ..... 23
- 岡山の森を育て、製材木材の活用を試みる (安田年一) ..... 24

■ 農と食の問題を考える（柳和徳）	25
■ 健塾で学んだこと（青井幸子）	26
■ 私の実践（浅雄都）	27
■ 健康イコール教育（板野恒一）	28
■ 食育を考える（斉藤美加子）	29
■ 「学ぶ」（高橋澄代）	30
■ 笠岡諸島六つ物語（竹内弘海）	31
■ 高齢化社会によせて（武川英樹）	32
■ 食について（南條治）	33
■ 生活習慣病と食事脂肪について ～n-6/n-3 比を中心に～（林真愉美）	34
■ 太極拳とその運動効果（八木康行）	35
■ 健塾2年目終了に当って（横山嘉和）	36

## 平成19年度事業報告

---

■ 事業の成果	38
■ 事業実施に関する事項	39
■ 年間活動記録	40

## 一年を振り返って

理事長 松畑 熙一

科学技術の長足の進歩の反面、環境問題、食料・生命問題などの人類存亡の危機とも言える大きな課題が生起しています。今までの「競争・開発・拡大」重視から「つながり・共生・共創」を重視し、「共生・共学・共創・協働」を基本理念に、地域から創造・発信することが重要です。そのような理念の下、平成17年4月に「連塾・地域創生学研究所」を開設して3年目の今年度も、「連塾」(地域創生リーダー養成塾)、「健塾」(福寿社会創生活動塾)の活動に積極的に取り組んでまいりました。昨年6月には、特定非営利活動法人に認証され、今後はさらに充実した地域創生活動を目指すため、NPO法人としての活動が新たにスタートしました。現在、総勢約80名の塾生(修了者による「熙連会」を含む)が協働して活動していて、充実した一年を過ごすことができました。

「連塾」は活力ある地域づくりを推進する「地域創生リーダー」を育成することを目指しています。自ら楽しみ、充実感が味わえる活動をプロデュースし、その結果、新しい地域創生のために協働する人、一人ひとりが楽しく生き生きと生活する大きな人の輪につながるような人材育成を目指して諸々の活動を行ってきました。「健塾」は、健康を主要テーマとして、ユーモア精神を持って明るく、前向きに生きようとする心豊かな、活力に満ちた長寿社会づくりを目指して、「生涯“楽”習健康法」を習得し、生涯楽しく学びながら、健康で明るい充実した人生を過ごすことを目標に活動してきました。

今年度の活動の中心は、「第19回全国生涯学習フェスティバルまなびピア岡山2007」への参加でした。公式の記念行事に取り上げられた「桃太郎鍋」、及び「温羅鍋」は、塾生及び熙連会の皆様の協働の成果で、盛況のうちに完売することができた。今後は、食産業のみならず一般家庭にいたるまで、岡山県名物として県内外にでも親しまれるものにしたいと願っています。また、私達が発案し記念事業の一つとなった「吉備キビ桃太郎体操」にも積極的に参加して、キッズからシニアまで誰もが楽しめる健康体操を推進することができました。その他にも、参加事業として、岡山県国際交流センターでは「連塾」活動紹介展を開催し、連塾・健塾の活動内容をカラフルなパネルとトークで紹介しました。また、「桃太郎・温羅ウォーク」を足守コースと鬼ノ城コースに分かれて盛大に開催することができました。

「まなびピア岡山」は成功裡に終えることができましたが、これを単なるイベントとして一過性のものにしてはなりません。NPO法人「連塾」が中核となって、県民と地域社会が輝く「生涯学習社会☆おokayama」、真の生涯学習社会の実現に向けて、「まなびピア岡山」の成果を継承・発展させていくことに尽力したいと思っています。

# 活動レポート集

(地域創生学研究会 2008.2.17)

## 「地域創生学方法論」確立への一試論

近藤 治

### 1 はじめに — 何のための地域創生学か？

地域とは、人間が共同して日常生活を営む場である。そして、人間は、希望をもって生きたいと願うものである。地域創生とは、人間の共同性を創り生み出すことであり、その共同性とは、そこで生活している一人一人の住民の希望のみなもととなる「他者とのつながり」だと、私は考えている。

では、なぜ「他者とのつながり」が、一人一人の希望のみなもととなり得るのか。

鷺田清一（臨床哲学）は、次のように述べている。

〈わたしはだれ？〉という問いには答えがないということだ。とりわけ、その問いをじぶんの内部に向け、そこになにかじぶんだけに固有なものをもとめる場合には、そんなものはどこにもない。じぶんが所有しているものとしてのじぶんの属性のうちではなくて、だれかある他者にとっての他者のひとりでありえているという、そうしたありかたのなかに、ひとはかろうじてじぶんの存在を見いだすことができるだけだ。（中略）わたしたちはたがいに存在をあたえることで生き延びることもできるものであるらしい。ちなみにドイツ語では、「ある」ということを「それがあたえる」(es gibt)と表現する。

他者とのつながりが日常生活の中で確保されている場所。それが、地域であるとも言えるだろう。

また、希望と社会の関係を考える「希望学」という新たな研究を2005年から始めた玄田有史（労働経済学）は、岩手県釜石市での調査を通して次のように述べている。

希望は、人と人との関係のなかからしか生まれえない。大事なことは、どんなに苦しくても希望のパスをつなぎ続けることである。（中略）大切なのは、誰かに期待するだけでなく、自分も期待されている存在と、一人一人が自覚し、自分にできることを地道に続けることだ。そこに希望の輪は広がっていく。

明治以降の中央集権化により、日本は「坂の上の雲」を目指し、近代資本主義システムに組み込まれ、欧米化＝近代化をたどったが、その反面、地域のアウトルキー（地産地消のシステム＝自給自足圏）は消滅し、人と人との関係性、人と自然及び地球環境との関係性は崩壊の危機にある。

このような中、我々はどのような地域を目指すべきだろうか？

### 2 地域創生学のプリンシプル — どのような地域をどう目指すのか？

#### (1) 中央集権から地方分権、そして地域主権へ（「補完性の原理」の確立）

個性豊かで活力に満ちた地域を住民と住民に最も近い市町村がつくっていくことが、地方分権の基本理念である。暮らしにかかわることのうち、地域の創意工夫による特色ある活性化策に基づき、地域ができることは地域が行い、できないことだけより大きな自治体や国が補完する。そうした地域の主体性が最も重要であり、そのための税源移譲が求められる。（地方分権から地域主権へ）

#### (2) 住民自身による地域の自律と自立へ（地域における学習を通じた「地域力」の向上）

地域再生を図る方策を熟知しているのは、主役である住民自身である。地域主権を確立するためには、住民自らが地域に目を向け、自身の問題として解決していく気概と力量が必要である。「住民参画のまちづくり」に向け、まち全体を「壁のないキャンパス」として、住民と行政との協働により、根気よく学習を重ねていくことが大切である。

その他のプリンシプルとしては、すべての人々の人権が保障される地域となること、そこでの仕事で生活し得る地域となること（地場産業の振興、・雇用の創出）、自然と共生しうる地域に再生すること、伝統を再発見し地域の特色を土台として地域社会再生に取り組むことなどが挙げられよう。

### 3 おわりに — 「教育」にかかわる者として、まずは「人づくり」から

地域社会づくりは人づくりである。そして、教育は、個人にとって重要であるだけでなく、その成果は社会全体の共通の資産でもある。今後、学校教育や社会教育等を通して、地域社会づくりのリーダーとなる人材を育成することに加え、住民一人一人が豊かで充実した人生を実現できるよう、誰もが生涯にわたって学び、たのしみ、その成果を生かして社会貢献や新たな挑戦のできる仕組みづくりを地域社会全体で進めていく必要がある。（生涯学習の振興）

官民協働のもと、地域住民自らが、「他者とのつながり」を通して、「希望」を共有することのできる地域を創出する。それに向け、従来の学問的枠組みを超えた学際的アプローチ（方法論）の確立を目指すことが、「地域創生学」という新たな学問に挑む我々の矜持ではないだろうか。

#### 【主な参考資料】

- 鷺田清一『じぶん・この不思議な存在』講談社現代新書、1996年  
 玄田有史編著『希望学』中公新書ラクレ、2006年  
 本間義人『地域再生の条件』岩波新書、2007年

# “わがまちねっと”を背景に“健康づくり会”での活動と “百楽塾 OB 会”を舞台に地域創生学を实地検証

地域創生学研究所

笠岡；田中 治美

① “わがまちねっと”地域の地域活動グループの仲立ちを立ち上げて2年が経過、ソロソロ自主活動も活動内容のメニューにとは思いながら矢張り地域での活動は健康である事が大切である年頃のグループ！

“健康づくり会” 08年度の活動としては食・運動・医療問題等々、高齢化率45%の笠岡に居て健康づくりを基に地域のコミュニケーション、地域創生学を实地検証が出来れば…を、08年度の目標に上げたく…！

②百楽塾 OB 会を舞台に県 農林水産部 農村振興課；【財】都市農山漁村交流活性化機構のグリーンツーリズムに参加、“耕作放棄地の解消”運動を含めての消費者と生産者との交流、コミュニケーション；消費者の声が聞こえる・フィードバックを念頭にした、地域創生を課題に行動を起こしての地域創生学を实地検証して行きたいのが今年の目標と考えています。

地域づくりは、体感治安の向上から

太田 正孝

地域を元気にしたいとの思いで議員になりまして、はや13年になります。この間に気が付いたことは、地域の治安が悪いと地域に元気がなくなっていくということです。このままではダメ。自分たちの住む町ですから、できることから始めようと地域の人々とともに活動を始めました。

まず、軽犯罪の撲滅からです。私が住む町では、自転車の窃盗や空巣、忍び込みなどの軽犯罪が増え続けていました。警察でもないのに、取り締まることはできませんが、犯罪が起これない環境づくりならできます。町内会や老人クラブ、婦人会などの会合で戸締りの重要性を会員の方々と一緒になって訴えました。地域住民の戸締りの意識は格段に向上をしたとお思います。また、庭瀬駅の駐輪場整備が長年の課題になっていましたが、署名活動をしたりして地域パワーで整備に至りました。実は、このことが犯罪抑止に大きく繋がりました。駅前に置きっ放しであった何百台もの自転車がなくなり、他人の自転車を勝手に乗って帰ってしまうようなことがめっきりなくなったのです。

こうした取組により、吉備交番管内で軽犯罪を激減させることができました。

一つ課題解決がされれば、次の課題が見えてきました。子どもたちの登下校の安全確保です。吉備学区は庭瀬往来などの旧道が多く、それらの道は狭隘な道のため、そこを通行する際に、子どもたちは危険を感じていました。さらに、不審者情報も急増していました。そうしたこともあって、地域でパトロール隊を作ろうとの動きが起きました。常時の活動は難しかったのですが、地域にばかりに甘えてはいけないとの声がPTA内にあがり、PTAの方で安全部が立ち上がり、下校時のパトロールが始まりました。時間を作ったパトロールは大変だと思いますが、現在ではオリジナルの帽子やチョッキ、タスキをつくって、それらを身に付けてのパトロールとなっています。このように軌道に乗りつつある時、県教育委員会のセーフティコーン設置事業に応募し、県教育委員会の支援を受けることになりました。「子ども110番SOSステッカー」がさらに進化させたものです。学区内の事業所やお店、町内会役員の方のお宅にお願いをして、黄色い「子ども110番のセーフティコーン」を置かして頂いています。皆さん快く引き受けてくださって、現在107箇所置いて頂いています。工事現場に置く赤いコーンと全く同じ大きさで、子どもたちの目にも良く見えます。子どもたちの姿も以前にも増して、元気良く見えますし、体感的に安全・安心が増しています。

現在、もう少し良くできないものかということで、地域と学校が協力して、吉備小学校施設・通学路整備促進期成会が立ち上がりました。学校の施設整備だけでなく、庭瀬駅をはさんでの東・西踏み切りが狭隘で軽い接触が多くあるとの報告があったりしますが、こうした問題の解決に取組もうというものです。治安を良くしていこうということから、次々と地域の人々がつながっていています。このつながりから、様々な活動が始まっているのです。安全・安心は地域共通の願いであり、お互いにその思いをもっていることが確認できれば、まちが変ることを感じています。もう少し頑張りたいと思います。



連塾実践コースレポート 「英語という言語を指導する際の留意点」

2期生 大橋典晶

1 英語を選ぶ理由

英語を教える側にいる者として、他の言語ではなく、なぜ英語を教えるのかを考え、それを通して、英語を指導する際の教師の留意点を考察した。

まず、英語を選ぶ根拠は、(1) 国際的に広くコミュニケーションの手段として使われていること (2) 極めて広く英語学習が行われている実態 とに集約できるだろう。(1) の状況をして英語を「国際語」と言わしめる状況が生じていると考えられる。統計にもよるが、英語使用者は10億人を越え、その過半数が非母語話者であるということはほぼ共通に認識されているところである。このような状況から、母語話者を含まないコミュニケーションのほうが多くなっている。

このような状況の中、「だれが英語を所有し、英語の規範を決定する権利を持っているのか」という問題については、完全に非母語話者同士のやり取りでは、母語話者が権利を持つことには疑問があり、「英語を使うすべての人が英語を所有している」と考えるべきだろう。このことに関して、特に注目したいのは、「中間言語理論への挑戦」と、「英語帝国主義の暴露とそれへの抵抗」である。

2 中間言語理論への挑戦

中間言語とは、「第二言語学習途上の学習者の言語体系の総称」である。つまり、この理論によれば、目標言語（例えば英語）があつて、その言語体系に学習者の言語体系が近づいていくということになる。しかし、国際的な英語使用状況を見た場合、日本の英語教育全体が目指すべきスキルは、母語話者の英語への同化ではなく、国際的コミュニケーションの場面で通用する英語能力の獲得である。これまで、「美しい発音」「正しい発音」で、慣用句も使いこなすことが望ましいと考えられてきた傾向があると思われるが、そのような目標は、実現不可能に近いこととあわせて、そのような目標を掲げることが積極性を阻害する要因の一つとなっていた可能性がある。今後は、むしろ、コミュニケーションの相手に合わせながら、情報や気持ちを誤解なく伝え合う力を目指すのが現実的であり、有効であると考えられる。

一方、カリキュラムの開発のための議論として、「評価基準」と「教授モデル」は区別しておく必要がある。つまり、学習者の発話の評価基準として、我が国独自のものを考えるのと同時に、提示する英語はこれまでどおりの英語であり続けるべきだという区別である。

3 英語帝国主義の暴露とそれへの抵抗

英語帝国主義とは、英語の有用性・経済性を認める立場である。外国語の中から英語を選択して学ぶということを受容し、無批判に受け入れるのは、英語という言語に優越性を認め、英語を母語として、あるいは母語話者のように使用できる人に優越性を認め、西欧・アメリカの文明に優越性を認め、それ以外の言語や人や文明を劣ったものであると考えるようになる危険がある。そして、このような態度は、いわゆる「ヒドゥン・カリキュラム」として、暗示的に子どもに刷り込まれていくことになる。このように、無批判に英語を受け入れ、教材とすることは、望ましくない態度を育てる危険がある。

4 まとめ

前述したように、英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われていることが英語を教えるべきであることに直結するものではなく、無批判に英語を受け入れることには危険性があると考えているが、一方、実務的な観点から考えると、教材・教師・教授法等の利用可能なリソースが豊富であることから、英語を教材として使うのがやりやすいということになる。さらに、個人の「言語能力」「言語体験」を豊富にするという目標に照らした場合、英語を教材とすることには有益な面がある。日本語とは大きく異なる言語システムであるということである。語彙・音韻・文字だけでなく、統語法が大きく異なっている。さらに、コミュニケーションの作法（コミュニケーションスタイル）が異なっている。英語というシステムを身につけることで、日本語の語彙辞書が変わるという研究もある。これらの点が外国語として利用するならば英語になるという根拠であると思われる。

## 駅西地域振興計画～平成20年駅西地域の現状と今後の予想～

2期生 小野員之 (TEL 086-293-5959)

京都駅のミニチュア版岡山駅は東京人気店の入店と地元人気店による出店は岡山駅中心の交通の要所である岡山駅橋上の地理的絶対的好条件であるところの商圈は客の囲いこみにより競合する表町商店街にたいへん大きなマイナス要因を与えている。しかし西地域は商店構成の違いからたいした変化はおきていない。

19年末、同志太田県議の議会における質問は旧大正町の再開発のげんちを得ています。

西地域にとっては今後、高環境の条件下にあります。こうした変化が表町よりの出店希望者のアクセスが数多くみられます。また、わが駅西地域町づくり協議会は松畑塾長、衣笠ベスト不動産社長、太田県議、船木氏、切り込み隊の小野とが、協議会の主軸の位置をかため一定の成果をあげています。

さて、2年前に商人の卵のインキュベーションをめざし、たちあげた組織はみごとに失敗した。また、同時期全国的に商人の卵の育成をめざした所はどの場合も結果がおもわしくなく、または失敗した。

この組織の不適合と入ってくる若者にも問題があるようでした。特に商人の絶対条件である「種銭タネゼニ」がない、あるいは少ないために独立しない(巣立ち)店が多く、または、やめる若者が多いのも現状でした。

そこで19年度末より、ひとりひとりの入店者をさがし、入店の手伝いをするようにしました。特に資金が少ないので店舗の設営は、自分達で行うことを条件の様にしました。

大量の資金をつぎこんでも商店街のカテゴリーが小さいために大きな資本の投かは経営の条件が悪すぎます。そこで、できる限り、自分達で店づくりをするようにお願いしました。

現在11月末より3月にかけて5店舗回転しています。出店希望の相談も多数あるようです。

## 暮らしと地域の融合

連塾 2 期生 千房新太郎

### 1. 暮らし方について

現在の私達の暮らしは、情報から分かる世界の国々に比べても、治安の面でも、生活に必要な物資の面でも随分恵まれていると思えます。戦争や内戦と言う悲劇にも 60 年来直面していません。戦後の 1945 年以後再構築して来た社会は政治や経済的に安定したものだだと思います。しかし今、社会の政治、経済、食料、地域、医療、人口構成等、色々な面で歪みや格差が多く現れてその是正が思う様にまかせず、人々がより暮らし易い安心な生活をと思い始めているのも事実です。

私達が暮らすこの岡山に限らず、日本各地で隣人、地域の人々との関係はお互いに希薄になりました。健康で経済的に安定していれば豊かなインフラに頼って隣人や地域の助けを借りなくても生活できます。昔の様に、人同士の助け合いや、結果生じるしがらみを嫌う風潮があるのも確かだと思えます。

### 2. 地域での協力が必要な時代

しかし、地域とのしがらみとは関係無く、楽しく生活を続ける事が出来ると思っていた時代は去ったと思えます。早くから憂慮されていた通りに、私達の国は世界のどの国も経験しなかった超高齢化社会に一番早く到達しています。お互いの人間関係や、地域の接触の希薄さから年令に関係なく、暮らしに関係する様々な個人、団体の健康や治安に関するトラブル等も統計上からもはっきり増加しています。昔の様でなくても様々な形で、地域と繋がりを持った暮らし方を築いていくのが、人々の人生の為にこれから必要とされる時代がやって来ていると思われれます。

### 3. 個人的な活動について

今からおよそ 8 年前から、音楽仲間と喫茶店や、町内会、保健施設、イベント会場等で皆さんに歌って頂いたり、聴いて頂く音楽のコンサートを始めました。演奏するジャンルは唱歌や歌曲、外国歌曲やポップス等様々です。

最近はかつての歌声喫茶に似たイベントも県内各地で少しずつ復活して行われています。皆さんとの音楽の楽しみに加えて、違う世界で活躍される人々との交流が生まれる事は、連塾でも目指す地域の創生に役立つ事を今改めて感じ、これからも機会を作っていこうと思っています。

色々な場所で多くの方にお目にかかり、違う機会への助け合いが生まれた事も大変嬉しく、人との繋がりがあればこそと思っています。

## 自創自給を考える

2期生 難波好江

・・・私の実践・・・

- 2006年 4月 連塾入塾 基本コース（2期生として）
- 2006年 6月 百楽塾入塾（1期生として週末には里山である田原へ通う）  
合同で田植え・草刈り・堆肥積みなど年間の百姓作業を覚えていく
- 2006年 8月 荒地を耕し、畑とする（連塾メンバー9名が借りた約50坪）にて実習
- 2006年 9月 秋・冬作の作付けをする
- 2006年 10月 稲の刈り取り、天日干し、脱穀体験、収穫祭
- 2007年 3月 春・夏作の作付けをする
- 2007年 4月 連塾 実践コースにすすむ
- 2007年 7月 百楽塾課程修了 卒業と同時に百楽OB会員となる
- 2007年 8月 百楽の耕作放棄田を個人的に借りられる約束を取り付ける（60坪）
- 2008年 1月 秋・冬作の収穫をしながら春からのプランを練る
- 2008年 2月 新たに農地（300坪）を借りることとなる  
野菜ソムリエとしてキッズ・ベジフル・キッチンのサブ講師を務める

・・・「農」の体験から学ぶ・・・

会社に勤めて、いわゆるコンクリートの箱の中での仕事をしているだけでは、全く見えていないものがあつた。一步踏み出して、広い視野で周りを見回してみたときに、自分の行動や考えの狭さを知ると共に、新たな視点を得た。

まず、自分がいかに自然に接していなかったかを反省しつつ、日頃の不摂生も改め、なるべく畑に足を運んだ。土のおいを嗅ぎ、汗を流し、心身のストレスを発散。年間を通して、作物や自然と関わり、土地の人たちと関わる。また、パターンの違う生産者の方達、流通に携わる方達、消費者と会って話をする機会を得た。さまざまな立場から見ても「農」にまつわる時代の動きを感じ取れる。

日本の自給率の低さや、依存している輸入食品の価格高騰など、ただでさえこれからの先行を懸念せざるを得ないようなニュースを聞かされ、じっとしてはいられない思いだ。更に追い討ちをかけるように、毒物混入中国ギョーザの事件が起こり、今更のことではないが、世間が慌てふためく。初めて、食べることが他人任せではいけないことに気づいたかのごとく消費者が危機感を持つ。自分たちのための食材すら、どこで、誰が、どのように生産しているかを正確に知らされないまま、見極めることもできず、何を食べさせられているかもわからない時代となった。長い間なおざりとなっていた、バランスの良かった日本の食事情を取り戻せないものかとも思案する。

今一度、「農」のあり方に立ち返るべく、私の実践もまずは、自分のため、家族のための自給を試みることからである。それが、今後“ハチドリの一滴”となり、「食べること」すなわち「生きること」にこだわる消費者が増えることにつながっていくことを望みながら。

くらしき男女共同参画フォーラム ワークショップ

## 「子育て親育ち ～あなたは子どもの心が見えてますか～」の取り組みから

連塾2期生 野島淑子

### 1 はじめに

少子高齢化が問題となる中、特に後期高齢者人口の急増により、心と体の健康づくりが大きな課題となっている。平成12年に発表された「健康日本21」の国民運動の基本姿勢は、行政主導の考え方から、地域住民と行政が真の意味での共同の観点から、協同（cooperation）よりも共同（collaboration）へとシフトしていく必要性が強調されている。

その一環として、男女共同参画推進事業においても、行政は事業活動の支援をする立場で関わることになり、平成19年度の「くらしき男女共同参画フォーラム」では、初めて推進委員でワークショップを立ち上げるようになった。その代表として取り組んだ、4月から10月開催までの活動を報告します。

### 2 活動計画とその取り組み

○ 推進委員（22人）のうち13人がワークショップ部担当とし活動を開始する。

① テーマ：「子育て親育ち ～あなたは子どもの心が見えてますか～」の設定

今年度は平日開催となることから、子育てをしている人を対象にテーマを考えることとした。近年、幼児の先天的な能力の素晴らしさが学問的に実証され、その生育環境が人間形成に大きく影響することが周知になってきている。しかし、子どもを取り巻く環境は決して安穏とは言えない状況にあり、人間関係の希薄さの中で、子育てへの不安を抱えている人も多いのではないだろうか。子育ては養育者が子どもと共に成長していく過程でもある。今回は、子どもの視点に焦点を当てて問題提起を試みた。抱え込まないで自分を出すことで見えてくるものがあるのではないかという思いでテーマを設定した。

② 講師の人選と依頼

ワークショップは参加者が、ある課題について互いの考えや気持ちを出し合いながら、自分を見つめ、自身を再構築していく過程でもある。そのための問題提起をしてくださる講師に、川崎医療福祉大学保健看護学科 教授 鈴井江三子氏をお願いした。氏は、学生の指導だけでなく、種々の国際的なプロジェクトにも参加され、看護教育や母子保健向上のために幅広く活躍されている。特に、最近、悲惨な事件として話題となった幼児の性被害の実態についての見識が深く、広く啓発活動もされている。

③ 委員の研修と準備

推進委員の構成は、地域活動のリーダーからなるが、ワークショップの運営は初めてという人が多く、その研修や準備には参加者の日程が合わず苦勞をした。テーブルマネージャーとしての役割と共に、子どもたちの実態や養育者が抱える問題点をみんなで研修できたことは大なる収穫であった。子育て真ただ中の方々に、エールを送るための企画になることを願った。

### 3 「'07くらしき男女共同参画フォーラム」の実施と結果

平成19年10月26日（金） 場所：倉敷市芸文館

10:00~11:30	ワークショップ
13:30~13:50	ミニコンサート
14:00~15:30	講演：田部井 淳子氏

平日開催のため、集客人数の確保が新たな課題であったが、過去の実績と評価があったことと、事前の広報活動が活発であったために、当日雨にもかかわらず多数の参加者を得た。ワークショップにおいては、当日参加をお断りするほどの

の盛況で、関心の深さを知ることができた。各グループの参加者の話し合いも活発に行われ、限られた時間を有意義にもつことができた。

<参加者の感想>

「年齢や立場の違う方々と話しができて、楽しくもあり勉強になった。子どもが何を考え、欲しているかを見守り、話しをしながら子育てができればいいなと思った。講師の先生の話も分かりやすくよかった。今、頑張っていることが価値あることと再認識した。頑張っていきたい。」

### 4 おわりに

話しを聞くだけでなく、自分の思っていることや感じていることを言葉に出し、心を解放することが、不安を抱えている人を元気づけるということを再確認した取り組みとなった。



## 地域のスポーツ育成プロジェクト

福高 正吾(大阪書籍株式会社)

### 1. はじめに

平成 20 年には北京オリンピックがあるなど国民的にもスポーツへの関心は高まっています。

平成 17 年岡山国体を期に岡山では各競技の取り組みがさらに強化されてきました。特にジュニア層への育成強化が盛んになり全国的にも活躍する選手が多数輩出されています。男子フィギアスケートで倉敷市の翠松高校出身、高橋選手が世界大会で入賞、ゴルフでは山陽高校出身の諸見里選手が各大会で入賞するなど活躍されています。

また、岡山県では平成 28 年に全国高校総体の開催が予定されています。

### 2. 課題

各競技の基礎的な力は、一部ジュニアクラブなどで練習している生徒を除き、大半の生徒が中学校、高等学校での部活動によって培われます。

ここで問題なのは、各学校での部活動への取組状況に格差があることです。学校によっては部活動に専門の顧問がついていないことがあります。

また、専門的な技術、知識をもった顧問の先生においてもメンタルトレーニングやスポーツ栄養学などの専門知識を持たれた指導者は多くはありません。

### 3. 連(つながり)の力をコーディネート

ボランティア団体、または NPO を立ち上げます。これには大きく分けて 2 つの目的があります。

1 つ目は外部コーチの登録バンクをつくり、要請に併せて人材を派遣するものです。

岡山県では学校に外部コーチを設置することができます。

各地域に主に社会人で構成するクラブチームがあります。クラブチームからボランティア団体に専門競技の人材を登録してもらい、学校からの要請を受けて登録員を紹介します。

例えば、卓球で小学校時代にジュニアで活躍した生徒が中学校に入学したものの担当顧問に専門の先生がいない場合。

まず、学校からボランティア団体に問い合わせをいただきます。外部コーチ登録バンクから地域の方を紹介します。学校との面談後、双方合意の場合に外部コーチとして指導していただきます。

このように、各地で学校とクラブチームが連携し、外部コーチの充実を図ることによって、地域全体の競技力の向上が期待できます。また、地域と学校、地域と子供たちとのかかわりもより深い関係を築くことができます。

2 つ目は大学や医師会などと連携し、メンタルトレーニングやスポーツ栄養学、筋力トレーニングなどを専門に研究されている先生方を各学校の要請にあわせて紹介するものです。

専門の知識を持たれた先生を講師として、顧問の先生や外部コーチに研修する機会を設けることによりさらなる指導力の向上が期待できます。

また、学校側からは大学の先生に対して各部員のデータサンプルを大学に提供することで双方にメリットが生まれます。(個人情報ですので学校、部員、保護者の了解を得てからになります。)

### 4. まとめ

近年、メタボリックシンドロームにかかる中高年が激増しています。中学校、高等学校で取り組んできた部活動を生涯学習としても取り組めるように地域も協力することが必要と考えます。スポーツを通しての健康づくりとともに世界にはばたく未来のトップアスリートがこの岡山からさらに巣立っていくことを願っております。

～ 出来そうだなと見つけた～

二期生 藤原 忍

実践コースに入った2年目。基礎コースの論文テーマに基づいて活動のあり方を模索した。そのテーマは関係する専門的知識や仕事を含めて私を取りまく状況のほとほと「自命に生まれるもの」の一角を占める。数ヶ月の経過を経て、その中、書店で見つけた一冊の本が、私を引寄せた。それは「オオカミを放つ」と題名をつけた本でした。文字どおり日本の森林に狼を放つ。多くの動植物のために豊かな生態系を取り戻し、ひいては管轄にほむ山村の人々のために役に立てようというものです。内容のあらは次の通りです。



- 崩壊する生態系 ---- オオカミ絶滅のせいで起きたもの
  - オオカミの捕食能力 ---- 生態系への貢献
  - 諸外国の生息状況 ---- 住民との共存
  - オオカミは日本では ---- 狼に對する考案、他種がまの事柄
  - 戦時対策 ---- 鹿、猪、狼などの関係
- 以上10章に成る12年間の調査、統計、研究はどの主体に編集されたものです。  
(丸山直樹、須田知樹、小倉澤正昭編著 ……白水社出版)

私はこの本により「日本オオカミ協会」の存在を知り、その会員登録を済ませ、同協会の発行する冊子「フォレスト・コール」などを読んでいり中で「自命に生まれるもの」は「こゝろだ」との結論を出した次第です。

本年初頭 松畑望長に御報告、御相談申し上げた所、「是非、速くはどうか」と御助言をいただき、意を強くした次第です。

山間部の雪むくくした頃、農家の人々に管轄についての具体的な調査をして、私を見つけて、望は見えなくとも応援の手を!

多くの問題を抱えた課題ですが、「連塾」の皆様のおかげで、より一歩ずつ歩みを進めています。

興味を持ってください。御一読をいかにしていただき、

## 児島湖周辺干拓について

三澤 初子

岡山県は後樂園、閑谷校など 14 カ所を世界遺産として、提案書を文化庁へ提出致しました。そして又、津田永忠の土木干拓事業で今注目されています。以上のような現在を考え、樋門について調べることに致しました。

児島湾締切堤防は、農業用水の確保や塩害防止、また、湖水面を低位に保つことによる排水改良を目的として造成された農業用施設です。昭和 31 年の児島湖淡水化以来約 50 年を経過し、県南部の都市開発はめざましく県下総人口のおよそ三分之一を占める約 60 万人が住み、流域の都市化の進展、産業の発展につれて生活雑排水等により児島湖の水質悪化が進行しました。このため、国営事業により、用排水施設の再編整備や農業用水の水質を改善し周辺農地の保全を進めています。

妹尾三連樋門



児島湾からの海水進入と上流の余水を確保、さらには妹尾川を渡る橋梁として 1904(明治 37)年 4 月に竣工した。アーチ部分の径間は丙川のものと同じであるが、全体的にはこちらの方が小さめである。

桜の馬場樋門



堤防沿いに掘られた排水路(汐廻という)からの排水専用樋門。形状は、楕円状の「アーチリング形式」で、イギリス積みで重ねたレンガと花崗岩を組み合わせた非常に美しい樋門である。設計者は不明であるが、建設時期は明治 37 年頃とみられる。

常川樋門



児島湾干拓一区(灘崎町)の 3 樋門(片崎、常川、宮川)の一つ。花崗岩の石組の美しい構造物で、わが国最古のオランダ工法によるもの。七区干拓の完成でその役目を終え、いまは、樋門公園のモニュメントとして残っている。

世界遺産に登録されるということは、すばらしいことですが、その遺産を守り抜くことは、もっとすばらしいことでそして大変なことです。一人一人が自分に責任を持って次の世代に送り継ぐ、その信念を持ち続けることだと思っています。



## 坪田譲治文学に関する私の仕事

—2007年の総括として—

劉 迎

坪田譲治文学と付き合ってきて、いつの間にか十四年の歳月が経った。その間、坪田譲治文学の世界に浸る喜びや悲しみを味わいながら、その中にある深い意味に興味を感じ、その真髄を探究していくなかで、私は少しずつ文学的に成長してきた。しかし、「坪田譲治読み、坪田譲治知らず」というほど、私はますます坪田譲治のことが分からなくなり、自分の力不足を痛感している。坪田譲治の文学世界は実に奥深くて、我々の理解をはるかに超えているのである。特にこれまであまり知られていなかった数々の作品や多くの事実が新たに発見されたことから、それを踏まえた坪田文学の全般にわたる徹底的な検討と批判が今日の我々にとって緊要な課題の一つであろうかと思うのである。

この観点から、私は昨年、坪田譲治の思想と文学を再び洗い直し、新しい坪田譲治研究の流れを作ろうと思って様々なチャレンジを試みた。主に 1. 坪田譲治とその時代を作品研究および作家研究の資料整備として構築する 2. 新出資料の解読等による坪田譲治文学の成立を解明する 3. 戦時下及び戦後における坪田譲治の文学的営為について検討する の三つを挙げるが、以下のように進めてきた。

1. 坪田譲治文学の全貌を示すべき「坪田譲治書誌」の作成は着実に進んでおり、2008年2月という時点において確認できた作品数は1780点に達している。中でも特に「潮流」「木星」「科学と文芸」など同人誌に掲載された作品を中心とする調査は大きく前進して、初期における坪田譲治の文学とその思想についての解明を可能にした。その検討を今後の課題にしたい。

2. 多くの新出資料を解読した上で、坪田譲治文学の成立に直結した諸素因を「家族」という視点で把握し、その思想的源流を最大限に追究してきた。2007年11月11日に初の個人講演会を行い、その一部を「坪田譲治文学に描かれた〈家族〉—父親への思い—」と題して発表したほか、また、岡山市立北公民館での講座を通してその深層の解明を試みた。

3. 「坪田譲治文学における〈戦争〉」(12回シリーズ)が、「上海視察をめぐって」(2回)と「南京から杭州へ」(3回)として結実され、具体的な作品に即した詳細な論証を展開させた。次回は「北支」での坪田譲治の活動を確認し、戦時下における坪田譲治の文学的・思想的な営為について追究する。

しかし、資料収集の困難のため、具体性の乏しさや究明の不十分さなど内容に関わる幾つかの問題点が残されており、精力的な資料収集と詳細な考察の必要性が要求されるから、研究を深め発展させる今後の更なる努力を尽くさなければならないと思う。

ある不良塾生の手記

連塾3期生 安藤 肇

今一番、心配なことは、塾の出席日数のことです。落第するんじゃないかなあ！???  
(先生、大丈夫でしょうか。) 小職、

昨年3月、市役所を定年退職したのに、けっこう多忙。というのも、即4月から、「児島湖花回廊プロジェクト」・河津桜3000本植樹事業に、足を突っ込んだのです。

ある企業グループの地域貢献事業でしたから、予算的には、まずまずの状況を確認してありましたが、当社グループにとっては、何もかもが初めてのこと。(金さえあれば何でも出来るぐらいに思われていたようで。)市内に主要グループ会社が6社、その社長等を束ね、有力OBの理解を得ながら進めていくことが、重要な課題の一つでした。まず、3000本の河津桜を植樹し、育てていただくボランティアの募集から始めなければなりません。

ボランティアグループ「児島湖花回廊サポーターズクラブ(略称KFSC)」を立ち上げ、会則起案、ポスターと会員募集チラシの作成、現在、事務局には、私を含めて専従は4名、会社業務と兼務の3名、臨時職員1名と体制も整っていますが、4月当初は、私と兼務の幹部職員との2名のみ。多くの社長連中は、誰かがしてくれるだろう程度の安易な感触。

早速てんてこ舞い、4月28日、「児島湖花回廊」協賛のチャリティゴルフ大会の予選開始。植樹協力金として募金をいただくとともに、植樹と管理育成ボランティアとしての参加者募集です。3年間で3000本が目標でしたので、まず、先述の一般植樹・育成ボランティア1000人を集める目標を立て、スタートです。

ひとことで1000人といっても、大変です。集められるとは思っていませんでした。人は少なくとも、植えればいいんだろうぐらいだったのが、本音でした。一方、植える場所は、十分にあるんだろうか。これも、まあ何とかなるんだろう！?ぐらいの思いでした。

これらが、すべて私の仕事?えーっ、ギョツ、です。

市役所、市の関係の施設へポスター掲示及びチラシ配布依頼。町内会の説明会、新聞等への広告宣伝。一人ずつの掘り起こし。植樹時期は、10月以降。時間はたっぷり有ると思っていたのですが、どうすべきか、手探り。児島湖周辺30km、10mに1本ずつで3000本。計算ではそうですが、計算どおりになる筈も無い。心配事ばかりが、先にたって、不眠。

ところが、地元町内会の役員の方々のご尽力により、町内会単位の入会申し込みが200名ずつ。この方々が大きな支えです。これらの方々約600名。チャリティゴルフ参加者も、予選期間140日で約500名。今や、総計1850名のサポーターズクラブになりました。県内各地に加えて、県外からもちらほら。機関紙も、2月15日現在、6号目。

9月22日、松畑塾長をお迎えして、サポーターズクラブの設立総会を開催。10月21日にはチャリティゴルフ決勝大会記念植樹、12月2日の植樹祭に550名、1月26日の植樹会に650名。噂が噂を呼んで、今も植樹したい、桜を咲かせたいとの思いを込めて、参加希望の方から、お便りをいただいています。勉強しながらの実践です。来期は是非、連塾の皆さんと一緒に植樹し、花回廊に育て上げたいと願っています。松畑先生の「ハチドリの一滴」の教訓を糧に、3000名のサポーターズクラブを目指しています。

連塾 新年度 事業希望

20年度 7月 26日(土) 木堂ふるさとまつり

笠岡よいとこ探検 20:00~ 笠岡港花火大会

12月~1月 河津桜植樹 植樹用地未定

## 小学校英語教育を通じた地域創生

岡山市立西小学校 藤井 佐代子

安武 将広

岡本 育子

近年、「学校」「家庭」「地域」の3者が連携を取りながら、みんなで子どもたちを育てていこうということが頻繁に叫ばれるようになりました。日々の学校生活において子どもたちと接していても、学校だけではなく家庭や地域からの働きかけがあることで、子どもたちがよりいきいきと学ぶことができると実感しているところです。幸いなことに、本校では地域の方々の協力が多く得られており、例えば、5年生が「田んぼの学校」の活動をしたり、学校行事に地域の方々を招いたり、1年生に昔遊びを教えていただいたりしています。

「田んぼの学校」では、どろんこ体験に始まり、田植えや稲刈り、稲わらぼしを地域のボランティア先生に教わりながら体験した後、その先生方を招待してライスパーティーをします。また、刈り取った後のわらを使って、お飾り作りもします。初めて米作りを体験する子どもたちも多いので、自分たちで作ったお米のおいしさや、米作りの大変さを身をもって感じるとともに、食物を大切に作ってくれる人に感謝する心を育てたいと思いながら取り組んでいます。授業時数の関係などから、なかなか頻繁に田んぼに行くことができないので、イベント的な活動にならないように工夫をする必要があると感じています。

そんな中、もう少し子どもたちが地域に対して働きかけができないかと思い、木村先生の作られた岡山にホームステイをする外国人を受け入れる「英会話冊子」の小学生版を作ってみようと考えました。その内容を以下に述べます。

### ①英語表現を小学生向けに簡単なものにする。

今回の学習指導要領改訂では、小学校5年生から英語活動が必修になります。そこで示される言語材料を含み、なおかつ小学生にとって発話しやすい簡単なものを中心に会話を組み立てたいと考えています。また、実際の場面で使いやすい会話表現を取り入れることで、より実践的なものにしたいと思います。

### ②吉備の国の名所や特徴紹介を盛り込む。

この冊子で取り上げる名所を、岡山市内に限らず、岡山県全域から取り上げ、その特

徴紹介を盛り込みます。例えば、後樂園・岡山城・鬼の城・吉備路・ベンガラの町・白石島を含む笠岡諸島・しまなみ海道・牛窓の町並み・矢掛本陣・由加山などを考えています。子どもたちが英語での案内の仕方を学ぶとともに、それぞれの名所についても知ることができるように構成します。

### ③ユーモアのあるおもしろいスキットにする。

会話は単なる言葉のやりとりだけではなく、ユーモアを取り入れたおもしろいスキットにします。コミュニケーションにおいては、相手意識・目的意識が大切です。岡山を訪れた外国人を意識しながら、岡山の良さを伝えたいという目的意識を持って会話をすることが大事になってくるわけです。オチがあり、おもしろいスキットを見ながら、自然に相手意識・目的意識を持って会話ができるような工夫をしたいと考えます。

### ④音声CDをつける。

スキットをCDに録音したものを付け、いつでもネイティブな発音が聞けるようにします。また、冊子には写真も入れ、子どもたちが場面を想像しやすくします。もし可能ならば映像もつけたいと考えています。

次に、作成手順です。以下のような手順を進めたいと考えています。

- ①岡山の郷土の参考資料を集める。
- ②スキットの場面設定をする。(時・場所)
- ③人物設定をする。(性格等)
- ④スキット原稿作成・ネイティブ・スピーカーによるチェック
- ⑤岡山を紹介する画像の撮影
- ⑥スキットの録音(ネイティブ・スピーカーとともに)
- ⑦製本・CDの作成

本格的な取り組みは、2年次です。写真を集めたり楽しいスキットを考えたりしながら、郷土岡山に誇りを持ち、外国の人と進んでコミュニケーションが取れる子どもたちを育てられるような冊子にしたいです。

地域づくりと「なつかしさ・気づき・文化力・得意分野・持続力・引きつける力」

加戸克平

1 はじめに

・地方の活力の低下

経済的な地域格差、人の移動による格差拡大、地方都市の空洞化、合併市町村の行政サービスのデメリット、限界集落の増加、岡山は現状維持の力が強い、岡山の文化が発信されていない。

・地方の活力の低下には、地域に根ざした精神的バックボーンの低下があるのではないか。

2 地域づくりに向けての私的視点

(1) 視点①「なつかしさ」「自然と人間の共生」「里」

情の中心は「なつかしさ」の情緒。日本人は情の人。情の力により、物事に対して深い印象、深い感銘をうける。／自然と人間の共生が日本の文化の根底にある。／都市も農村も農村化へ動きが加速。緑の空間への渴望が起こっている。日本の原風景「里」に癒しを求める。

(2) 視点②「感動」「気づき」

日本人の心の中心は、モノに感動するところにある。／「感動の心」をもって地域をながめると「気づき」がある。

(3) 視点③「文化力」「らしさ」

文化は共有することで安心が得られる。文化は持続をはかってこそ輝きがある。／文化的景観は、人間と自然との心の交流の重要性が認識されたもの。自然の文化力を引き出す。／その地域の食べ物が、地域に住む人々の思想や文化をつくる。／「文化の力」は人を引きつける力。引きつける力は「らしさ」。「らしさ」はその地域ならではの魅力に特化させること。／地方は文化を中心にしたビジネス活動を目指すべき。

(4) 視点④「得意分野」「できる限り」

地域再生のために必要な要素「ワカモノ」「ヨソモノ」「バカモノ」／自然体ボランティア「なにげなく、さりげなく」が地域に広がること。コーディネーター機能を果たす少数の専門家も必要。／活動は「できる限り」、それぞれの「得意分野」の範囲で協力。

(5) 視点⑤「持続力」「つながり」

いったんはじめた限りは、人が代わっても、世代をまたがっても、なんとかものにしようという「持続力」、粘着力。／”ひとつの思い”に、”たすき”をつないでいく「つながり」。

(6) 視点⑥「人を引きつける力」

観光による地域おこしの意義は、自然とそこに住む人の暮らしがミックスした独自の文化をしめすこと。／自分たちの暮らしの良さを守ること、自分たちの住んでいる地域の景観を良くすることが大切。／暮らしの中でできあがる”物語”の蓄積。この暮らしの蓄積を具体的に実感できることが「もう一度行こう」につながる。／観光は自分のことを考えること。観光をうまく生かして地域を活性化。

3 まとめ

上記視点の連鎖の中で、地域を見つめ直す。／まず足元を知ること、地域に残された「本物」を確認することから始める。／地域の魅力に気づき、地域で暮らすことに喜びが感じられ、そこで生きている生活文化に魅力があるところに人々は引きつけられる。／自分たちの暮らす地域が、人を引きつける力を自ら発揮することが、地方分権時代の地方自立につながる。

参考文献（主なもの）

中西進著、(2004)、『日本人の忘れもの 3』、ウェッジ／梅原猛・上田正昭著、(2001)、『「日本」という国 歴史と人間の再発見』、大和書房／川勝平太、(2002)、『「美の文明」をつくる』、ちくま新書／黒岩祐治、(2005)、『日本を再生するマグネット国家論』、新潮社／アレックス・カー、白幡洋三郎、船山龍二、(2007)、「観光立国日本を目指すために」、『日本経済 新聞(2007.11.5)』、35 面

執筆者：加戸克平、勤務先：岡山県備中県民局協働推進室、連絡先：086-221-9819（自宅）

地域創生リーダー養成塾『連塾』レポート

テーマ：「山田方谷に関するレポート」

平成20年2月17日

連塾3期生 川上道子

平成19年11月17日の研修で訪れた山田方谷について、文献からまとめてみたい。

備中聖人ともいわれた山田方谷は、文化2年(1805)年に現、高梁市中井町西方に農商の子として生まれた。元々は土地の名族であったが、全財産を没収され所払となった山田家は当時極貧の状態であり、父は製油業を営み、菜種油の製造と販売に従事していた。5歳の時には家を離れ、新見藩儒の丸川松陰の塾に学ぶことになった。貧しい生活の中でも方谷のために学資を惜しまず、もと武家の家系でありながら没落して農民になっていることを嘆いた父は、方谷が身を立て家を興すことを戒め、母も父の志を成し遂げるように諭したという。このように幼い時より方谷は両親の期待に応えるよう努力したのである。

師である丸川松陰は、老中松平定信よりの学制改革の任を辞退し、利や名よりも義を重しとし、自分の誠実を貫いた人物である。この人柄が方谷にとっても大きな財産となった。

9歳の時に、来客から「坊や、学問をして将来何をするのか」と問われ、方谷は「治国平天下」と答えたという話は有名である。「大学」「中庸」「論語」などの暗唱ができるようになっていた方谷は、人々から神童といわれるようになった。父母の死後、15歳で家業を継ぐと同時に学業に励んだ。毎日升と秤を手にして農民や商人と交わった経験は、後の藩政改革の際に、利権との戦いに有利に働いた。

23歳の時には、京都へ遊学し寺島白鹿<sup>はくろう</sup>に朱子学を学んでいる。この時方谷は学問の目標を、弟に宛てた手紙の中に「私が学問に励むのは、まことにやむにやまれないのです。亡き父の志は継がなければならないし、藩主の恩にも報いなければならない。そのために、家を捨て身を忘れ、家業をかえりみず、慈母の恩に背き、妻子の愛を投げ捨ててまで学問しているのです。だからたとえ力が尽きて途中で死んでもよい。私の学問に対する断固たる決意は、天下の力をもってしても動かすことはできない。」と決意が示されている。

以上、幼少時から青年期までの方谷が、学問をどのように捉え考えてきたのかについてまとめてみた。生活の貧しさに反して、忠孝精神、学問への誠実さ、夢と希望を見失わない豊かな心の醸成をみることが出来る。厳しい身分制度の中での屈辱や、生活苦から抜け出したいという必死の思いが真の学問への欲求へと繋がっていったものと考えられる。

また、丸川松陰をはじめ、朱子学の寺島白鹿<sup>はくろう</sup>、鈴木遺音、春日潜庵、さらには佐藤一斎一門として陽明学を学び、佐久間象山や横井小楠らとも出会っている。生活を共にする中で師の生き様を通して教育されていることがわかる。家業を通しての人間関係の中からも、本質を捉える力が備わっていったものと考えられるが、200年の歴史を超えて今我々に語りかけているような気がする。

山田方谷の墓を訪ねた際、秋の落葉に囲まれていた。イチョウの葉を拾いながら、岡山の歴史を造った人物に多少とも接近できたことに喜びを感じた。閑谷学校の再興にも尽力した経緯についても今後調べてみたい。

参考文献：「郷土の偉人 山田方谷」、田井章夫監修 方谷を学ぶ会著

「山田方谷の世界」、朝森要著、岡山文庫 215、日本文教出版

表題「或る高齢化団地のこれから—健康で明るい生き方を求めて」

2008. 2. 16 3期生 福田明正

小生の住んでいる団地は約250戸で高齢化が進み平均年齢が65～70才だと思われます。大部分の人が60才の定年を迎え本業を卒業して自宅で静養か趣味を味わっている、元の企業に契約社員で週数日勤務、シルバーの仕事などで日常を過ごしている。現在各家族の形態は幸いにも夫婦そろっているし、一部は子供家族と同居している。

この団地に小生が帰って来たのは4年前（夫婦で）、まず倉敷市のシルバー人材センターに入って、この団地を含む一組織の再生化をはかった、ついで我々の団地内の同一企業退職者40名の組織を作って定例的に幾つかの活動を続けています。活動の趣旨はみんな仲良しで健康であり続けようです。これからの目標は「団地全体のたくさんの人達に参加してもらうこと」です。

これまでの活動した結果やこれからの活動の方向などは今後報告します。

## 地域づくりの心の片隅には常に防災意識を（その1）

舟木 信行

幼い頃、“北極や南極の氷が溶けたら海面が上昇し、まちが水没してしまう”という記事を少年誌で見て子供心に大変驚いたことがありましたが、その原因となる気温上昇は太陽が膨張するため...といった遙か夢物語で書かれていたと記憶しています。

それからわずか数十年、原因の違いはあるにしろ地球の平均気温は上昇し、極地の氷や大陸の氷河が減少、海面の上昇や地球温暖化による様々な問題が心配され、対応策防止策が論じられる世となりましたが、温室効果ガスの削減など子々孫々に引き継がなくてはならない超長期的な課題を私たちは抱えてしまいました。

そして、日本の社会も近年状況は一変、総人口も2004年12月をピークに減少（総務省：2005年国勢調査に基づく推計）に転じ、2006年3月には65歳以上の老年人口が総人口に対して20%（総務省：住民基本台帳に基づく人口動態）を超えるなか、国は平成の大合併を合い言葉に地方自治体数の減少を推進してきましたが、一方で取り残され、今後消滅の恐れがある集落に対しては“限界集落”なる先祖代々住み人たちの心情をまったく無視した名称を無神経に使用する事態になっています。

ところで、改めて言うまでもなく私たちの国土、日本列島は中緯度で大陸と大洋の狭間にあることから豊かな四季に恵まれています。反面、大陸と大洋の狭間にあるが故に季節の変わり目には梅雨前線などの前線が停滞し、夏から秋にかけては台風が北上してくる場所となっています。

こうした気象環境は日本列島の存在の有無に関わらず北西太平洋地域で起こる毎年変わることもない地球の営みではありますが、前記した地球温暖化による気象の変化や日本の地域社会の衰退という変化への流れがある以上、これらを容認した上で防災の意識を常に念頭に置いた地域づくりをしていかなければならない、という考えを持つようになりました。

視点を岡山市に向けてみますと、近年最も災害が多発したのは日本への台風上陸数が過去最多の10個となった2004年（H16年）で、県内通過こそ無かったものの8個の台風が接近（岡山市から半径300km以内）をし、台風16号と18号で高潮浸水、21号と23号で土砂崩れを中心とした大きな被害をもたらしましたが、特筆すべきは私は16号での高潮だと思えます。

岡山地方気象台が玉野市に設置している宇野検潮所で前年までに観測した過去最高潮位は1991年台風19号の195センチ（東京湾平均海面上）で、2004年7月31日の台風10号（201センチ）がその記録を更新したばかりでしたが、その一ヶ月後の8月30日にはそれを上回る255センチを台風16号で記録、その一週間後の台風18号でも204センチ（同年9月7日）、翌年の14号でも204センチ（2005年9月7日）を記録し、過去に比べ高い潮位になりやすくなっているようです。（記録は岡山地方気象台HPから）

2004年台風16号の潮位を岡山県が県設置の検潮所の記録を検証したところ、児島湾内の高島検潮所が宇野検潮所よりも高い287センチを観測していたことがわかりました。（岡山県沿岸の水防警報パノフレットから）

また、京都大学名誉教授の奥田節夫さんが2006年6月10日に発表された調査結果では、児島湾の海面が2003年までの過去9年間で約15センチ（満潮時）上昇しているとのこと。（山陽新聞：平成18年6月9日朝刊）

いずれにしてもこれらの数値は潮位のみであって、それに加わる波の高さは加味されていません。

これに対し、私たちはどのくらいの標高の土地に住んでいるのでしょうか？

南に行くほど標高は低いということは漠然と思われていると思いますが、市内でいうと岡山駅前の交差点で約2.6メートル、大供交差点で2.3メートル、福富から米倉にかけての国道2号沿いで1.6～1.8メートル、旭川の東でも円山から海吉にかけての岡山牛窓線では1.0～1.8メートルですから、岡山の標高が低いか、高潮の潮位がいかに高いか恐ろしいか、ということです。（一般的に幹線道路は周囲より高く作られています。）

さらに南部の岡南や三幡、九幡といった旧干拓地では道路こそ辛うじてプラスですが農地はマイナス標高（0～マイナス1.0メートル）で、児島湾の締切堤防で守られている児島湖沿いの農地では藤田側でマイナス1.6メートル、灘崎側でマイナス1.2メートルしかありませんから、高潮うんぬん以前に海面下の標高に暮らしていて堤防が破堤しただけで大洪水、元の海に戻ってしまいます。

したがって、平野部に住む人々は標高をもっと認識し、万が一の洪水の際には高いところに逃げる、高いところが遠ければ高いビルに上がらせてもらう、そして情報の入らない人や自力で避難できない人は誰が避難を伝えてくれるのか、誰が介助してくれるのか、あらかじめ考えておかなければなりません。

他県では寝たきりの妻を2階に上げようと夫が背負ったまま老夫婦が水死した事例があったり隣の倉敷市でもやはり高齢者が自宅内で高潮浸水で水死をされたりしましたが、市内でも2004年台風16号の高潮の際に沿岸の地域の人たちは避難が間に合わず、腰まで海水に浸かった消防職員や団員に見守られながら自宅などの2階で一夜を明かした事実がもっと伝えられないといけない、と私は思います。

岡山平野のゼロ・メートル地帯は東京・大阪の2倍、海岸全てに壁を築くことはできないのだから。



「岡山の森を育て、製材木材の活用を試みる」

安田年一

1. 岡山の森林・製材の現状

岡山県の森林面積は 48.4 万 h a で県土の 68% (全国平均 66%これはスウェーデンに次ぐ世界 2 番目の森林大国) その内人工林率は 39%あります。

製材に関しては県内には約 140 の製材工場が有り、その内約 6 割が県北部に集中しています。

2005 年岡山県出荷の国産材乾燥化率は 37.2%と全国 2 位です。

これは岡山県には 14 の製材等 JAS 認定工場があり、人工乾燥機の普及と、製材技術レベルが全国トップクラスである事を物語っています。

その様な中で国産材での製材自給率が全国平均で 32.7%しかなく (平成 16 年実績)

しかも現在の木材原木価格は昨年の 6 月 20 日からの確認申請の厳格化の影響を受け昨年 11 月の原木市場での 4m物杉丸太 (末口 160mm) 1 本で 1,000 円程度 (30 年以上育て立ち木を切り出し運搬し市場での価格で) これでは搬出コストが約 1,000 円でかかり実質手元にはなにも残らないのが現状です。

その中で今後の森づくり、製材品の活用に興味を持ち微力ながら活性化の取り組みを行いました。

2. 具体的取り組み

○ 「森の育ての親」ボランティア活動

平成 16 年の台風 23 号により被害を受けた津山市高倉東の 1.5 h a に岡山県の呼びかけにより平成 18 年 3 月に 14 グループで 3,000 本の広葉樹の苗木を植林しその 1 グループとして参加し 5 年間の下草刈を実施しています。・・・受け持ちは 0.1 h a しか有りませんが、山での下草刈作業はとてつもなくしんどいです。

○ 製材品の活用

私が在籍している会社 (福祉・医療関係を中心とした設計・施工の会社) で木造大型物件がメインです。しかし使用している木材は輸入材もしくは国産材集成材 (主要構造部) で岡山県産製材の使用は有りませんでした。

それは価格、品質、精度、歩留まり、ひび割れ等さまざまなリスクを考えると県産材製材品を主要構造部では使用しづらい現状があったからです。

それで原木の切り出し現場見学・製材等 JAS 認定工場の見学・原木市場見学・製品市場見学・木材に関するセミナー等多数参加する中で、JAS の製材檜柱 (乙種・1 級) の材料圧縮基準強度が唐松集成材柱の 1.34 倍、JAS 以外の檜柱の 1.47 倍有る事が分かり、精度に関しても 4 面スリットを入れる事により中温乾燥が可能 (高温乾燥であれば背割りは必要ないが中割れが発生する) で製品後の製品制度がより一定になる確認が出来ました。

(乾燥原料は材木の皮を使用し重油を使用していない製材工場です)

そして第一歩の取り組みで土台・柱を、約 1,000 本の檜製材品を使用した福祉施設 (2 階建て 1,037 m<sup>2</sup>) の建築を平成 18 年 11 月より開始し、製品精度に問題なく、平成 18 年 12 月 19 日に「岡山県産桧材 (無垢) を使用した取り組み事例のバス見学会を実施いたしまして建築士の方を中心に 40 名の参加を頂きました。

今後も岡山県製材木材の需要拡大を模索し山に製材用木材の植林が継続的に出きる様非力では有りますが、活動を継続して行います。

# 「農と食の問題を考える」

柳 和徳

以前、私は食と農の問題について、真剣に考えることが少なかった。しかし、自分の家族がアトピーに苦しむことと向きかけとして、人間の体の健康にとっての食の大切さ、そして、食の礎となる農の大切さに気付かされ、関心を持つようになった。幸いにも家族の食をできるだけ無農薬、無添加なものに変えることにおいて、アトピーから回復しました。これをきっかけとして、私は農と学ぶ百葉塾に参加し、さらに連塾にも参加しました。

農と食の問題を考え勉強していくにつれて、体にふも、安全なものを食べるといふ当たり前のことが、日本国民全体にとっていかに難しいか気が来た。健康に対して意識的な人はもちろん、できる限り、無農薬、無添加な食材と求めるであろう。しかしながら日本国民消費者全てが、そのように意識的になるとするならば、今の日本で安全な食材が供給されるのは物理的に不可能です。農作物の国内自給率が約39%という数字、そして、国産といえども農薬使用がほとんどという事実が明らかです。このような現状を変えていく必要があります。

そのためには、国の政策レベルと民間レベル（生産者と消費者の方向性）において、手と手合わせならぬことが多々ある。

最近の様々な「偽装」事件や、中毒事件などを見て私が特に強く思うのは、食にたがえるもののモラル（倫理感）が大切であることです。人の口に入るものに関わる仕事は、言わば「聖職」であり、その食物を自分の子や孫に食べさせたか反省していたらいいということです。しかし、人はモラルだけでは生きいきせず、経済というものが関係してきます。市場原理と食の安全は、仲々相入が難しいと思われず、安全な食材は金持ちが買、貧乏人は安く農薬以外の食材を買う、ということではあてにならない。

従って、食と農の分野は、市場に任せるのではなく、国の強い規制介入が必要で、そのためにも、民間レベルで食の安全、正しい農の在り方を求め、創り出してゆく運動が必要で。

## 健塾で学んだこと

青井幸子

私が健塾に入塾させていただきましたのはネーミングもさること乍ら、折にふれ、松畑塾長のお話を伺う機会があり、先生の誰にも真似の出来ない前向きな考え方、連をつらねて、明るく、幸せに一〇才まで生き抜こうとされる信念！

その御人柄に引かれ、私も、かねがね生涯学習であることは自覚しておりましたので、何かオーラをいただき学ばせていただきたく入塾させていただきました。

入塾してみますと、塾生の皆様は、すでに社会に貢献されておられる素晴らしい方々ばかりで中には遠路はるばる熱心に通われる方もおられ、頭の下がる思いがしました。

連塾との合同も多く平凡な私としては、ミスキャスト感がありました。

しかし乍ら「まなびピア」の活動の一環である「桃太郎鍋」に準備と当日に参加させていただき、仲間の皆様と交流も出来、とても有意義な一時を過ごさせていただきました。

型を抜き取った後の大根の残りを、そのまま始末することに抵抗感を持ちつつ終了しましたが、鍋は大変おいしく、多くの皆様に喜んでいただき、今後、岡山の名物鍋として、後世に残せれば、こんなに嬉しい事はございません。

健塾を通じ食育の大切さも気づかせていただきました。

日本の自給率の低さは、中国のぎょうざの問題にも現れますように、安いから、簡単だからと容易に依存して来た日本に反省の機会を与えてくれていると思います。

大きな政策問題でもありますが…。

私も身体が元気なら百楽塾で農業をしたいものですが残念です。

今年始めてプランターに野菜を植えました。ナスビ、ミニトマト、ちんげん菜、春菊…。僅かですが、食物が育つのが、こんなに楽しいものと知りませんでした。

大切になかなか食べられない内に腐って仕舞った品も出来ました（笑）。

日本の各家庭で少しでも食物を育てられたら、子供達の意識も変わり、食文化の素晴らしさを伝えられるかな？とも思えて来ました。

体調の事もあり、ウォーキング始め、参加型の行事に行けない事が残念でした。

とりとめのない事ばかり書きつらねレポートに成っておりませんが健塾で学ばせていただき元気をいただいた事に深く感謝しております。

## 私の実践

健塾1期生 浅雄 都

健塾の一員として 2年間 色々な事を学び 又 参加もさせていただきました。

なんといっても「学びびあ岡山2007」での温羅鍋や桃太郎鍋は700食という数もさることながら松畑塾長のもと 連塾 健塾の 皆さんが 食べて下さる方の笑顔を思っ 心を1つに結集 出来たことです。

一方で色々学びながら 一方でボランティア・・・これが私のライフスタイルです 一例をあげてみたいと思います。

十字屋迎賓館 十字屋さんという個人所有の旧家と酒蔵を大改造され 迎賓館として ギャラリーや 置物 調度品やら 大昔の家の造り等 見学に来られた方に 説明 案内をする。

十字屋文庫 全集ものや ずらりと並んだ蔵書(子供向けの図書部屋もある)の閲覧 貸し出しを 50名のボランティアが 当番をしています 私もその1人ですが 常に地区の人達が 集い 政治 文化 食育等 話題が豊富で 意義深い 交流の場となっています。

町かど展 普通 文化祭は公民館等 学んだ場所で発表しますが 真庭市 落合では 集会所 個人の家 町並み等あらゆる場所で地域の人達が 日ごろ つくったり 書いた 作品を持ち寄ったり 何代も昔からある 掛け軸 屏風 襖絵 超高級な 絵画など お寺や自宅を期間限定で開放して地区の方々に見せてもらっています。 私の住む鹿田(かった)でも 十字屋迎賓館や文庫館のホールを借りて展示 実行委員の1人として 盛大な町かど展であった事をうれしく思っています。

福祉センター ふれあいの日というのがあって 講師による身近な話題の勉強や 軽い体操 物づくり等 町かど展は勿論のこと 文化活動参加への一員でもあります。

グループホーム? ? (守秘義務の為)

長い人生を懸命に生きて来られて 時にタイムスリップして遠い昔に思いをはせ その情景にひたったり 1分前の出来事も記憶になかったかと思えばすぐなら 変わらぬ普通の状態だったりと めまぐるしく変わる 認知症のかたがたと

歌を歌ったり カウンセリングをいかしての 傾聴ボランティアをしています。

私が行くのを楽しみに待ってくれる人 帰らないでと懇願する人 行った日は 寝るまで調子が良かったという 職員のかたからの報告ももらいました。

やはり話し相手は 必要だと改めて感じているところです。

私のようないたらない者でも 少しはお役にたっていることを 喜んでいます。

おわりに 実践というにはあまりにも ささやかすぎますが 白鷗大学/福岡政行教授の 「出来る事からボランティア」のタイトル実行係りとなってしまいました。

## 健康イコール教育

板野 恒一

健康と教育とは関連性があります。知識を得ても健康を害してはできません。

まず、児童達が健康の大事さを感じて頂き、日々が健康になるために国をどうするのか、どういふ食べ物を食べて健康になるか考えて育成していくことが大事であります。それは物質的なものと精神的なものとのバランスを欠き、教育が是正する力をもたなかったことである。履き違えた自由と個人主義が幅を効かせ、いたわり、思いやりを美質とする日本人の生き方が崩壊しつつある。中でも公德心の弛緩と地域に対する人々の思い、家族の絆の希薄化が社会の活力をスポイルしてきたといえる。

改めて百年の大計「教育改革」の重要性を痛感せざるを得ないが、教育の憲法ともいわれる教育基本法が改正施行され、教育目標の中に「伝統と文化を尊重し、それらを育んできたわが国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」が盛り込まれた。

人という資源の国づくりを考え、地域社会の教育機能を高めるため、郷土愛の涵養に着目したい。人々がその地域を誇りに思い、育んできた伝統文化に関心を持たすアプローチがいるが、中でも先覚者の生き様、功績を生きた教材とし、学校教育の中に据えることが大切である。

そういう中で、団塊世代で人生 85 歳時代、人間は生涯学習で永遠に発展向上し、地元郷土において社会に貢献したい。そこで教育をしっかりと伸ばすためには健康でなければいけない。そのためには、小さい時から健康のための生活習慣と健全な食生活をするのが大切である。体を健全にして教育に生かして、すばらしい人生を過ごして頂きたいと思います。そのために少しでも活動させて頂きたいと思います。

## 食育を考える

健塾一期生 斎藤 美加子

最近、食品の偽装問題、中国製の加工食品の農薬問題など食をめぐる関心は大変高くなっている。また、一方では栄養素摂取の偏りや朝食抜きなど不規則な食事、生活習慣病の増加、食の安全安心の問題や食料自給率もカロリーベースで39%、また若者の調査などからも伝統的な食文化も失われつつある。そのような中であって、平成17年に「食育」に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、現在及び将来にわたる健康で文化的な国民の生活と豊かで活力ある社会の実現に寄与することを目的に「食育基本法」が制定された。

食育基本法では、食育は生きる上での基本であって、教育の3本の柱である知育、徳育、体育の基礎となるべきものと位置づけられるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する能力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てるものとして食育の推進が求められるとされている。食育に関する基本理念として、食育は、国民の心身の健康の増進と豊かな人間形成に資することを旨とするものとされ、単なる食生活の改善にとどまらず、食に関する感謝の念と理解を深めることや伝統のある優れた食文化の継承、地域の特性を生かした食生活を配慮することなどが求められている。

(平成19年版食育白書 内閣府より抜粋)

食育を国民運動として推進していくために国ではこの法律に基づき食育推進基本計画を作成し、例えば食育に関心を持っている国民の割合を90%以上にする、朝食を欠食する国民の割合を子どもでは0%にする、20歳代男性では15%以下にする、学校給食における地場産物を使用する割合を30%以上にするなど9項目で数値目標が定められ平成22年までに達成することをめざしている。各都道府県でも「食育基本計画」策定するよう努めなければならないとされ、19年6月現在で40都道府県で計画が作成されており、まだ、数値的には低いが市町村でも作成されつつある。学校や保育所でも指導の充実が図られており、保健・医療機関、農林漁業者や食品関連事業者各団体やボランティア互いに連携協力をしながら推進体制がとられているが、なんと言っても家庭の役割は大きいと思われる。平成19年6月24日付の産経新聞によると食品会社の「日本ケロッグ」が、全国の小学生を持つ母親300人(20~50代)と学校栄養士275人を対象にインターネットや郵送で実施した調査によると食育に対する認知度は栄養士99.2%、母親では65%だった。誰に対する食育が最も必要かを複数回答で尋ねたところ、栄養士は小学生(80.7%)親(79.3%)幼児(73.8%)の順だったのに対し、母親は小学生(94.7%)幼児(75.3%)中高生(63.3%)で、親と答えたのは44.0%にとどまった。栄養士からは「朝食抜きの子どもへの食育も必要だが、それを取り巻く家庭への食育も必要だ。」(大阪府、40代)「特に大人への呼びかけの対策を考えて欲しい」(滋賀県、50代)との意見があった。一方母親からは「本当は家庭ですべきかもしれないが、働きに出ているとそんな余裕もない。健康でいるためにはどうしたらよいかを、幼稚園や学校で教えてほしい」(千葉県、30代)という声があったということであるがこの記事に少し考えさせられた。

家庭での役割として、家族一緒の食卓を囲みながら、基本的な生活習慣の確立(規則正しい生活リズムの確立)食前、食後の挨拶の実践、何でも食べて残さず食べる習慣等自身につけさせることや行事食を家庭で作ることが大切なのではなかろうか。

平成20年2月20日

## 「学ぶ」

### 1 老化を防ぐ知恵

#### 不健康の3過乗

- ① 健康に自信を持ち過ぎ
- ② 食べ過ぎる
- ③ 労働過乗（心にゆとりがない）

上記3つのバランスが悪くなると体内に病を持つ事になります。

総カロリーの70%が良い ⇔ 腹8分目となります。

カロリー制減によって寿命を伸ばすことができます（5年～6年位）

☆命を自然から「いただく」と云う考え方から

食事の折に「いただきます」と云います。

### 2 老化は病態の一種

心を病むと老化は進みます。心がすさむと生き甲斐をなくします。

健康である為にユーモア精神を十分に持ち、その気持ちがあれば

どんな時でも別の角度（明るい考え）から物事を見る余裕が出来ます。

### 3 音楽療法

音楽（聴く、唄う、使う）クラシック、ジャズ、自然の音等々CDで聴く事によって心身のケアをする。

声を出して唄う事によって、自分の感情を外に出し顔の筋肉のトレーニングとなります。

楽器を打つ、吹く、手足を使う事によって全身の血流が良くなり、体の機能の回復と改善が出来ます。

氾濫する情報の中であらゆる価値観が揺れている世の中で、

個人個人の老化して行くスピードは常日頃の生活態度、時間の使い方、食事の材料、食事の時間等々違いますが、各人が長所短所を知りより健康な人生を送る事は

「総合人間生活学」として大切な要素だと実感し、120才まで生きる目標に

「健塾」での学ぶ事、努力する事、心穏やかに自分の人生を生きる。

高橋 澄代





高齢化社会によせて

20年02月20日

健塾 塾生 武川 英樹

今、少子高齢化社会は毎日の新聞やラジオ、テレビで必ずと言っていいほど目にし、耳にしない日は有りません。特に、これからの社会は高齢化が進み70、80は並みで、100歳を過ぎたら、何とか天命の世界に達するという事で、物事が進んで行くのではないか、等々考えられます。

塾長がよく言われましたが、還暦は折り返し地点で、ゴールは120歳だと、この言葉が納得出来てきました。

2年の間、いろんな事柄にふれて、元気を貰いました。自分なりに整理をして見ると高齢社会の真っ只中で生活をしていて、自ら元気を出さなくて何とする。私が住んでいる町は津山でも北に位置していて人口も家も急には増えたり、減ったりしない田舎です。今この町内でどの様な人間構想か振り返って見たくなりました。

1 家数 69軒 (内空家8軒)

2 人口 197人

- |                   |     |               |
|-------------------|-----|---------------|
| 1) 6歳以下 (小学校入学前)  | 13人 |               |
| 2) 7歳~18歳 (学生)    | 15人 | 1)~2) が 14.2% |
| 3) 19歳~29歳 (若者)   | 19人 |               |
| 4) 30歳~49歳 (担い手)  | 29人 |               |
| 5) 50歳~60歳 (定年前)  | 42人 | 3)~5) が 45.7% |
| 6) 61歳~70歳 (定年以降) | 22人 |               |
| 7) 71歳~80歳 (高齢者)  | 39人 |               |
| 8) 80歳以上 (最古参)    | 18人 | 6)~8) が 40.1% |

以上の様な内容です。地元の子供が如何に少ないか、高齢者が如何に多くなっているか、会合や、寄り合いに話しかけて皆で何が出来るか、何をしたら良いのか、自分なりにその答えが見える様に、探して見たいと思います。

今受けている、農協の非常勤理事の立場での活動を生かすのも方法の一つかもしれません。農業を通じての取り組みです。閉鎖している支店の建物を利用して皆で語り合う広場の設立とか、農業指導、生活指導、等々生き甲斐のある元気の有る街づくりが出来るリード役を果たして行く計画を設計しています。健塾の2年間で元気を貰った分、行動に表したい思いです

以上

## 食について

健塾 南條 治

健塾2期生となって、日程が変更(日曜日)になったので、地元の会合等と競合してなかなか出席できない状況が続いている。このレポートは今話題の食について少し述べてみたいと思う。食とは俗に衣食住といわれているが、生きること・生命の次は、食衣住でなければならない。さて今、食で問われていることは何か？毒入り餃子で一躍食の安全が問われている。

安心安全行政の在り方・製造工場・販売会社のモラル・原材料を支給する生産者の問題・消費者の在り方・グローバル社会の流通問題等多岐に亘る。まず、安心安全行政の在り方問題を提起してみよう。今の消費者(生産者含)行政は、役所が3本立(農林水産省・厚生労働省・経済産業省)で、無責任体制である。今、内閣で一本化の動きもあるが、どうなる事やら？安心安全な食を確保すると云う事は、焦眉の急であるにも関わらずである。食の安全保障と云われて久しいが、一向に改善されない。消費者も一部を除いて無関心である。日本の食の自給率は39%を切り、一向に下げ止まりを見せない。輸入に頼らざるを得ない悩淋行政ではある。一方消費者は、飽食の時代を謳歌している。曲がったキュウリや形の可笑しいトマト・虫食いの野菜等には見向きもしない。毒々しいまで鮮やかな深緑の化学肥料を使った野菜、農薬漬けの虫食いのない見ただけではきれいな野菜、そして極めつけは安いこと。流通の大半はこのような条件のもとで消費地へ送られる。消費者は神様である・この歪んだ信仰により飽食の時代を生み出し、食の安全保障を度外視した自由化の下に、自給率を下げ日本農業の崩壊を招いた。このまま行けば家庭から包丁が消え、鍋が消える日もそう遠くあるまい。しかし、いつでもどこでも食べれる弁当・総菜・中食等の家庭への浸透で、反比例してアトピー・花粉症などが増大している？

この機会に、食の安全安心を少し高くついても買う、という消費者ニーズが醸成されなければ、日本の食は危ない。消費者は神様である。神様の云う事は何でも聞くのが日本人である。信仰なら何でもいいのが、戦後日本人の気質となった。政府も行政の役人も日本人である。神様の云う事は聞かなければならない。赤信号もみんなで渡れば怖くない。の心境である。

今、政治行政の世界で面白いことが起きている。2月になって補正予算が可決された。そのうち500億円の予算が地域水田農業活性化緊急対策の転作事業に割り当てられた。2月25日までに今後5年間転作面積増加計画を申請すれば、19年度の転作率をクリアしている農家には増反分1反(10a)につき50,000円・クリアしていなくても計画申請すれば、増反分30,000円・3月31日に口座に振り込むと云う。農家にとっては誠に美味しいお年玉(少し遅い)である。例一転作無1町歩(100a)の田圃の持ち主が目標40%をクリア計画(4反歩)すれば、120,000円、すでに1反歩転作している農家では3反歩転作を増反した場合、90,000円交付(いずれも19年度のみ)。

どうして頼みもしない予算が組まれたのか。昨年の参議院選の与党惨敗の結果である。コメ余りが続く中で与党は昨年より、小農切り捨て・大農優遇政策に転換した。民主党は一戸当たり500,000円？の個別保障を打ち出した。そして民主党党首の参議院選挙の第一声は、川上の新庄村からであった。農山村の固い自民票は、なだれを打って民主党へ流れた。敗選後自民・公明の与党は、小農切り捨てを見直しこの法案となったのである。それでは何が面白いのか。まず、朝改暮令の法・与党なるがゆえに税金を選挙対策に使えるうま味・この予算のすべてが農民にわたることはさらさらない。いつものように中間に生き血を吸う天下り蛭がたくさんいる。国民として唾棄すべき予算であるが、農民はころりと参るので、また一層面白いのである。面白いといえれば少し古くなったが、昨年流行った偽装食品の問題である。北海道のミートホープの食材偽装の問題が世間を騒がせた。又、比内地鳥の件・赤福の偽装についても昨年同じく社会的法律的にも制裁を受けた。しかし、彼らはアイデアマンであり、食材の有効利用を促進し、購買者の人気を増幅し、結果として環境にやさしい事業展開となった。これらの件で中毒を起こしたという報告はない。この事件を教訓として全国的に賞味期限・消費期限が厳重に守られると大量の食品産業廃棄物が出る。CO2排出増大の原因ともなる。食は命を養うものである。食を疎かにした教育行政・食育についても議論し、農政についても真剣な国民的議論が必要である。食を離れて人は育たず、社会・国も成り立たない。

生活習慣病と食事脂肪について ～n-6/n-3比を中心に～

林 真倫美

平成20年度から特定健康診断・保健指導が始まる。内臓脂肪蓄積に着目し、メタボリックシンドロームを診断し（メタボリックシンドロームの診断基準は表1に示すとおりである）、動脈硬化を基礎とする心臓病や脳卒中などの減少を目的として運動、食事、禁煙の3本柱で生活習慣病の予防に取り組む。中でも、食事は予防や治療において重要な役割を果たすと考えられる。

近年、脂肪は肥満や生活習慣病予防または治療の一番の敵とされ、脂肪摂取そのものが悪という風潮が強くなりつつある。脂肪を減らせば健康になれるという誤解があるように感じる。例えば、アメリカでは、年間数十億ドルもの大金が“低脂肪”・“にせ脂肪”食品や脂肪吸収を抑制する薬、脂肪を減らす宣伝のためにつぎ込まれてきた。しかし、結果的に健康につながらなかったという報告がある\*。これらの脂肪に対する戦略が功を奏さなかった理由としては脂肪の種類について配慮しなかったためと考えられる。そこで今回、生活習慣病と食事脂肪の種類やバランス等について検討した。

食事脂肪の機能としては、エネルギー源、生体構成成分が知られているが最近の研究では、様々な生体機能調節機能が報告されており、生活習慣病予防において非常に注目されている（図1）。生体内では脂肪酸から種々の生理活性物質が生成される。この経路は大きく分けると2つ存在し、一つはn-6系脂肪酸のリノール酸からアラキドン酸を生成する経路で、もう一つはn-3系脂肪酸のα-リノレン酸からエイコサペンタエン酸（EPA）を生成する特徴的な経路である（図2）。前者はアラキドン酸カスケードと呼ばれ、プロスタグランジンE<sub>2</sub>やロイコトリエンB<sub>4</sub>などの炎症を惹起する生理活性物質の経路として知られており、脂肪細胞から生成されるアディポサイトカインであるTNF-αやIL-6とも関連し（図3）、生活習慣病の進展と深く関わっている。一方で、n-3系脂肪酸の経路により生成した生理活性物質は前者と拮抗的な作用を有し、抗炎症、抗動脈硬化作用により生活習慣病予防に有用である。これら2種類の経路は共有する一つの酵素で互いに競合し合いながら反応が進むため、原料となる脂肪酸の量によっても影響を受ける。食事から摂取するn-3系脂肪酸のα-リノレン酸やEPAを積極的に摂ることは生活習慣病予防に有効であるといえる。現在、日本人ではn-6/n-3比を4以下にすることが推奨されている。これには、十分な野菜と魚介類の摂取とキャノーラ油、大豆油の適正な使用が日常食生活において重要であると考えられる。

これらのことから、n-3系脂肪酸に対してn-6系脂肪酸が多いことが単に脂肪の量を減らしても健康を手に入れることができなかった原因の一つであったと推測できた。n-6/n-3比の他にも現在日本で推奨されている脂質の摂取バランスには、エネルギー比率20～25%、S:M:P=3:4:3などがあり、まずは脂肪の摂取量を適正にすることが大前提であり、脂肪酸のバランスも考慮していくことが生活習慣病予防の近道であると考えられた。

参考文献

\* 前田和久. 臨床栄養: 医歯薬出版株式会社; 2007; 110(7): 851-2

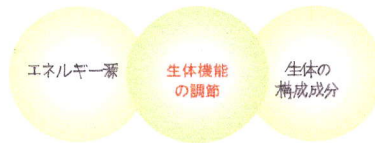


図1. 脂肪の機能

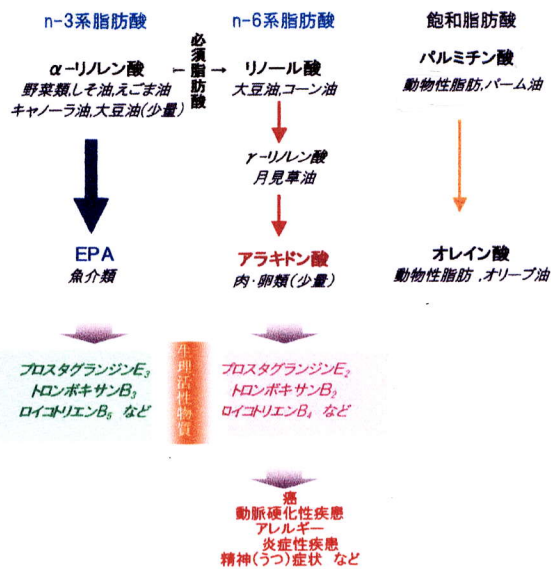


図2. 脂肪酸からの生理活性物質の生成

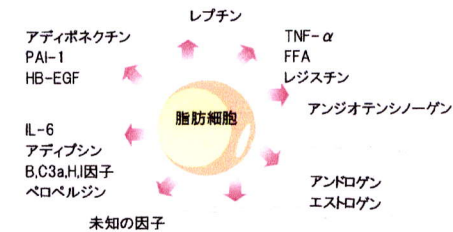


図3. 脂肪細胞が産生するといわれているアディポサイトカイン

日本内科学会(2005)		IDF(国際糖尿病連合)(2005)	
腹囲	男性≥85cm 女性≥85cm	腹囲	男性≥94cm 女性≥80cm
(内臓脂肪面積 男女とも≥100cm <sup>2</sup> に相当)			
上記に加え以下のうち2項目以上		上記に加え以下のうち2項目以上	
高中性脂肪血症	≥150mg/dl	高中性脂肪血症	≥150mg/dl
かつ/または		かつ/または	
低HDLコレステロール血症	<40mg/dl	低HDLコレステロール血症	<40mg/dl(男性) <50mg/dl(女性)
収縮期血圧	≥130mmHg	収縮期血圧	≥130mmHg
かつ/または		かつ/または	
拡張期血圧	≥85mmHg	拡張期血圧	≥85mmHg
空腹時高血糖	≥110mg/dl	空腹時高血糖	≥100mg/dl

疫学的調査から内臓脂肪面積 100cm<sup>2</sup>以上（CTによる）が腹囲≥85cm（男性）、≥90cm（女性）に該当し、これらの集団では血圧 130mmHg/85mmHg 以上（高血圧治療ガイドラインでは140mmHg かつ 90mmHg 以上が高血圧の基準）で心血管系障害のリスクが高まるという根拠に基づいている。中性脂肪、HDL コレステロール、空腹時血糖については疫学的調査の基準値としての妥当性が不十分であるため、臨床的基準値が採用されている。わが国のメタボリックシンドロームの診断基準については世界的な診断基準との相違もあり、今後、現実的な疫学調査と民族や生活習慣など配慮しつつ、検証し改定されていくと考えられる。

## 太極拳とその運動効果

健塾1期生・八木康行

### 太極拳の“ゆっくり動作”がもたらす運動効果

- 1、筋力強化（特に下半身の大殿筋群、大腿四頭筋群、ハムストリングス）
- 2、動作中の呼吸と持久力アップ（有酸素運動）。
- 3、身体バランスと集中力の向上。
- 4、動作がゆっくりしているため怪我や障害が少ない。
- 5、年齢に応じた体力づくりができる。

太極拳のゆっくりとしたゆるやかな動作は、一見すると“運動”という観点からはやや物足りなさを感じる。しかし、実際に行ってみると太極拳特有の体重移動や脊柱を中心とした円運動などから足腰の筋肉にかかる負荷は思った以上に感じ上記のような運動効果が得られると思われる。

太極拳（24式）は、開始（起勢）から終了（収勢）までほとんどの動作が少し腰を落とした姿勢でゆるやかに動くのが特徴である。また、動きは筋肉だけでなく骨盤・股関節を加えた腰の動きが中心となる。24式太極拳は約7～10分でその動きを終了する（有段者になれば動く動作もさらにゆっくりした運動で姿勢も低くなる）。体重移動の時、重心は低く意識して移動するがその間、下半身の筋肉は収縮、弛緩、伸張を繰り返している。つまり筋力トレーニングを行っているのである。但し上半身の筋肉への負荷はほとんどない。

太極拳は呼吸の仕方にも大きな特徴がある。特に動作中は鼻呼吸が中心となる。ゆっくりした動きの中で呼吸も動作に合わせてゆっくり“吐くと吸う”を繰り返す。特に吐くときは腹式呼吸となるが、初心者ではかなり難しく自然呼吸を心がけると良い。連続的に筋肉を使っている時間が長いことかなりの有酸素運動になり筋持久力を高めることになる。

片足で立つことや体重の移動はゆっくり動作のため片足で体重を支えている時間が長い。また、円運動が加わって動きの中で使われている下半身の筋肉は多い。以上のようなことから体を支えるバランス能力の向上にもつながっている。また、四肢の使い方にも特徴があり左右違った動きになり日常生活では使わない筋肉や動きが多く、習得するためにはかなりの練習を要する。このため技習得のためには集中力も必要になるので脳の活性化にも大いに役立つと思う。

エアロビクスやランニングのような激しい動きでないこともあり身体への負担は比較的少ない。加えて“ゆっくりした動き”なので自分の筋肉や骨の動きを非常に意識しやすい。これは体力づくりに好影響をもたらすばかりでなく集中力も養うことができる。ウエイトトレーニングでは、使う筋肉への意識をもつことが大切な要素になるが実はなかなかむずかしい。太極拳では体重移動や身体動作のときに使われる筋肉を意識しながら動くことができるのでランニングやウォーキングに比べると筋力トレーニングの効果は大きい。しかし、残念ながらその特性から、見た目には女性的でやや物足りなさを感じる。そのためか特に男性の太極拳への意識は、他のスポーツよりかなり低いように思われる。私も太極拳を始めるまでは、その運動効果には大した期待をしていなかった。これまで体力づくりとしてランニングや筋力トレーニングを行ってきたが、一年半程の太極拳によって下半身の筋力、持久力に加えて集中力、バランス力、柔軟性がさらに増してきた。明らかに太極拳の運動効果である。また、体の動きの中心になる肩甲骨や骨盤の動きが意識できることで身体の動きが滑らかに感じるようになった。

こうした実体験をから“太極拳”は女性にはもちろんのことであるが、筋力の衰えはじめた中高年の男性にとっても体力向上（特に足腰の筋肉増強）や集中力を養うには非常に効果のある運動ではないかと思われる。

## 健塾2年目終了に当って

健塾1期生 横山嘉和

健塾2回生となったこの1年を振り返ると、かなり充実した実り多い年となったと思います。

マナビピアに向けての準備、当日の健連合同の桃太郎鍋、温羅鍋の設営、準備、販売、十分な手伝いは出来なかったものの、皆で一緒に作り上げ大好評だった事で楽しめました。

又、個人的には塾長よりを頂き山田方谷生誕の地、猪風来美術館、吹屋を訪れる旅を企画し実施した事です。いずれも私の出身地である高梁近郊にある事から私への指名となったと思われませんが、企画のメインテーマであった「山田方谷研究」については正直ほとんど知識もなく、その足跡にも無知に近い状況でした。

そこで幹事に指名された後、最初に行ったのが、山田方谷に関する本を買い求める事、又、地元高梁の市役所、観光協会を訪ね方谷ゆかりの地を調べる事、又、たまたま方谷誕生の地高梁市中町西方に従兄がいる事から地元での方谷研究家を紹介してもらうこと。又、直接西方を訪ね方谷の生家跡、関係ある場所、方谷の残した物等を調べ、地元の方の話聞くことができたことでした。

6～7年前大阪での勤務時代に友人が「山田方谷の生き方はすごいネ」と、私が同郷の為当然判っているものと話し掛けられた時曖昧な返事をしたものだが、今回の企画の準備で友人の言葉の意味が多少理解出来る様になった事に感謝したものです。

又、縄文土器製作者猪風来氏とは友人を通じ3年前知り合ったものですが、一般に云う陶芸作家と違う命そのものから作り出す様な作品には大きな感動を受けていました。今の我々が忘れていたものを呼び起こしてくれる様な思いを感じて頂けるのではないかと思ひ時間的には厳しい状況でしたが山奥まで足を伸ばすことにし、本人の人生観についての話を聞きたいと依頼しました。残念ながら本人のフランスでの野焼の日程と重なり当日は奥さんに説明願うことになりました。この様な依頼や打合せに、彼の美術館を何回か訪ねた事で、彼の作品や彼の熱い思いに一層深く接する事が出来た事は大きな収穫でした。

旅の最後に訪ねる事にした吹屋には私も過去何度か言った事がありました。これも歴史とか成り立ちを十分理解してでの事ではなかったのではほぼ一からの勉強でした。山奥の地にもこの様な繁栄の歴史があり人々が生々と生活して来た事を知り、改めて故郷を見直す思いでした。

今回の企画は、わずか1日の日帰り旅のものでしたが、少し掘り下げて見れば自分の周囲に色々な歴史があり、人が居、誇れる物がある事が少し理解出来、大いに勉強になりました。又、多少とも人との繋がりが広がり高梁への愛着も強まりました。

一步一步踏み出す事で自分が磨かれる事は頭では理解していても引込み思案な自分にこの経験を生かす意味からも積極的、前向きに進む様、次を今年のモットーとしました。

「一日一快」

「一日一前」

主催して今年で5回目となる「セトウチ30kmウォーク大会」も今年は参加者を倍増300名以上にしたいと考えています。

# 平成19年度 事業報告

## 平成19年度事業報告

特定非営利活動法人連塾

### 1 事業の成果

本年度の事業は、地域創生リーダー養成事業、地域創生に関する調査研究事業および地域密着型生涯学習プログラムの開発・推進事業に、法人化以前より活動を展開していた組織（地域創生リーダー養成塾「連塾」、地域創生学研究会、福寿社会創生活動塾「健塾」）をそれぞれ活動の母体として位置づけ、その中で連携しながら定期的に座談形式の勉強会や現地視察訪問形式の研修会（真鍋島、岡山キリンビール工場、山田方谷縁の地）等を実施した。

11月には、もっと本法人の活動を知ってもらうため、これらが協力して、第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」参加事業として「活動発表・パネル展示」を行った。パネル制作や実践発表を通して多くの方に活動を知ってもらえた。

さらに、地域創生リーダー養成塾「連塾」の2年課程を修了した者で構成される同窓会「熙連会」を発足させ、今後は地域創生リーダー認定者間の情報交換や独自の活動を展開していく予定である。なお、この「熙連会」については、本法人と連携を取りながら今後事業を進めていく。

また、地域創生活動推進支援事業としては、第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」記念事業「再発見！岡山の食 みんなで参加『桃太郎鍋』」に協力し実施した。当日は大変盛況に終わり、その後のコンセプトや調理法方等についてご意見やご感想など多くも反響もあったため、「桃太郎鍋」についてまとめた冊子を製作し岡山県内の市町村や関係機関等に配布した。この「桃太郎鍋」については、本法人が保護を目的として登録商標を取得中であり、次年度は地域創生ネットワーク構築事業の一環として桃太郎鍋推進協議会を立ち上げ、今後の推進普及にも今後取り組む予定である。

旧山陽道歩く会や桃太郎・温羅ウォークにも協力開催した。この歩く会は、多くの地域住民・地域団体の支援や協力のもと実施しており、地域創生を行う上で重要な活動の一つと考えており、今後も旧山陽道をつなぐ活動に協力していく。また、本年度は活動の記録を残し今後の歩く会を知ってもらうため、「旧山陽道マップ」を製作協力した。

次年度としては、活動内容を継続して実施すると共に、本年度検討を繰り返してきた地域創生ネットワーク構築事業も展開させていく予定である。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数
地域創生リーダー養成事業	地域創生やまちづくりに必要な知識を実践を通して学ぶ地域創生リーダー養成塾「連塾」の実施（2年課程）	各コース 毎月2回 各3時間	コミュニティ・プラザ連塾 岡山市内	2～5名	・地域住民 ・学生 52名
	地域創生活動に取り組んでいる地域や団体を視察訪問しその事業に対して理解を深める研修会の実施	年間3回	訪問場所 岡山県内	23名	・地域住民 ・会員関係者 合計55名
地域創生活動推進支援事業	第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」の記念事業として「桃太郎鍋」を提供	11月3日	岡山県総合グラウンド	29名	・地域住民 777名
	第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」の参加事業として「私たちのまちづくり・地域づくり」にて本法人の実践活動発表及びパネル展示	11月4日	岡山国際交流センター	31名	・地域住民 63名
	旧山陽道歩く会を協力開催	5月20日 10月28日	矢掛町、倉敷市、 総社市、岡山市	20名	・地域住民 合計780名
地域創生ネットワーク構築事業	本年度該当なし				
地域創生に関する調査研究事業	地域創生学の学問体系を目指し、理論と実践の両面からアプローチ・研究を行う地域創生学研究会の実施	毎月1回 各2時間	コミュニティ・プラザ連塾 岡山市内	2～5名	・地域住民 ・学生 16名
地域密着型生涯学習プログラムの開発・推進事業	シニアライフを楽しむため、様々な分野の活動に参加して「生涯“楽”習」を実践する福寿社会創生活動塾「健塾」の実施	毎月1回 各2時間	コミュニティ・プラザ連塾 岡山市内	2～5名	・地域住民 ・学生 14名

(2) その他の事業      なし



### 3 年間活動記録

4月 15日 温羅鍋の試食会をコミュニティ・プラザ連塾で実施



21日 「連塾」基礎コース 開講式

22日 「健塾」例会

22日 「連塾」実践コース 開講式

22日 地域創生学研究会 例会

22日 熙連会役員会

5月 20日 第3回旧山陽道歩く会 (JR 清音駅～矢掛本陣)



23日 熙連会役員会

26日 「健塾」例会

26日 「連塾」実践コース 例会

26日 地域創生学研究会 例会

27日 「連塾」基礎コース 例会

6月 3日 「連塾」トップリーダーズセミナー 例会

3日 熙連会総会

19日 NPO 法人理事会

30日 「健塾」例会

30日 「連塾」基礎コース・実践コース 合同例会

30日 地域創生学研究会 例会

7月 2日 NPO 法人化

連塾・地域創生学研究所 (ISCI) より特定非営利活動法人連塾へ

13日 NPO 法人理事会

21日 「連塾」「健塾」合同例会 (外部講師セミナー)

会場：岡山済生会総合病院南2号館3階会議室

講師：内藤允子、古市大蔵、田口琢磨

21日 懇親会 (於 竹寅)

28日連塾・健塾合同宿泊研修 in 笠岡諸島 真鍋島（～29日）



8月 15日NPO 法人理事会

25日「健塾」例会

25日「連塾」実践コース 例会

25日地域創生学研究会 例会

26日「連塾」基礎コース 例会

26日「連塾」トップリーダーズセミナー 例会

31日第1回桃太郎鍋運営協議会（於 岡山県庁）

9月 3日第1回まなびピア実行委員会

15日岡山キリンビール工場見学ツアー

30日桃太郎鍋・温羅鍋取材

30日NPO 法人臨時総会



30日NPO 法人化記念講演会

講師：湊 照代

10月 1日第2回まなびピア実行委員会

3日財団法人両備櫻園記念財団 助成金 贈呈式

14日「連塾」「健塾」合同例会

27日「健塾」例会

27日「連塾」合同例会

27日地域創生学研究会 例会

28日桃太郎・温羅ウォーク（鬼ノ城コース、足守コース）



11月 2日まなびピア準備

3日第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」記念事業  
『再発見！岡山の食 みんなで参加「桃太郎鍋」』  
会場：岡山県総合グラウンド



4日第19回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア岡山2007」参加事業  
「私たちのまちづくり・地域づくり」  
会場：岡山国際交流センター



17日山田方谷学習と縄文式土器に親しむ旅  
(連塾基礎コース例会を含む)

17日「連塾」トップリーダーズセミナー 例会

18日「健塾」例会

18日「連塾」実践コース 例会

18日地域創生学研究会 例会

12月 9日「連塾」「健塾」合同例会

会場：岡山済生会総合病院南2号館3階会議室

講師：千房新太郎、有松英昭、鈴木毅

9日望年会(於 竹寅)

30日連塾年越しそば・大掃除

1月 7日NPO 法人理事会

27日「健塾」例会

27日「連塾」合同例会

27日地域創生学研究会 例会

2月 17日「連塾」基礎コース 例会

17日「連塾」トップリーダーズセミナー 例会

24日「健塾」例会

24日「連塾」実践コース 例会

24日地域創生学研究会 例会

3月 9日「健塾」「連塾」合同最終講義

9日熙連会総会

14日第2回桃太郎鍋運営協議会（於 岡山県立図書館）

29日活動発表会・修了式

会場：岡山シティホテル厚生町

29日修了パーティー（於 竹寅）

会報誌「連塾」 第1号

---

初版発行 平成20年3月29日

発行 特定非営利活動法人連塾 理事長 松畑熙一  
〒700-0015 岡山県岡山市京山 1-2-21  
TEL/FAX 086-251-4615  
HOMEPAGE <http://www.renjuku.org>

印刷所 高尾印刷  
製本所 アリヨン企画 株式会社